

◇吉野 久君

○議長（伊藤福章君）次に、16番吉野 久君の一般質問を許可いたします。16番吉野 久君登壇願います。

（16番 吉野 久君 登壇）

○16番（吉野 久君）一般質問いたします。

平成20年度は、住民のだれもが「美郷がいちばん、すきです美郷」と言えるまちづくりを目指し、合併後に策定された「美郷町総合計画」の到達目標に向かってステップする年と認識しております。町長の平成20年度施政方針の説明では、その目的を達成するために六つの主な取り組みを掲げておりますが、その中の一つに東京都大田区との交流の推進政策があります。将来的にこの事業が閉塞感ある地域経済を打開する役割を果たすものと期待し、関連する次の5項目について質問し、町長の見解をお伺いいたします。

まず初めに、美郷の味販売交流促進事業について質問いたします。平成19年度11月のO T Aふれあいフェスタと2月のカマクラ展物産交流市で、美郷町の物産販売を行っております。しかし、O T Aふれあいフェスタを視察しての出店者状況は、過去を振り返っても特定の生産者、商業者の参画にとどまっている感が否めません。また、カマクラ展物産交流市では事業の黎明期とは言え行政指導の色合いが強いと感じました。

平成20年度は、美郷の味販売交流促進事業として大田区で3回の出店を予定しております。しかし、将来的に美郷産物の通年交流を目指すなら、当該団体のJ Aや商工会はむろんのこと、生産者や商業者の意識改革が必要です。私はこの東京都大田区との物流を伴った交流を大きなビジネスチャンスととらえた参画する生産者、商業者の増加と自主的運営、また売れる美郷産物の工夫こそ今後の事業展開に必要と考えますが、町長の見解をお伺いいたします。

次に、美郷ブランド確立事業について質問いたします。2月行われた「カマクラ展物産交流市」では、鎌田駅前では美郷米の試食アンケートを実施し、あわせて米穀店・お米屋さんでの市場調査を行い、良好な感触を得てきました。また、平成20年度事業ではさらに美郷米の食味を伝え販路を拡大する目的で、新たに「うりこめ美郷応援事業」が行われます。今後、大田区との物産交流を「米」を核としてすそ野を広げていくことに異論はありません。しかし、その前提として高品質で良食味の「米」の安定した生産量確保が不可欠と考えます。

町では現在、減農薬、減化学・無化学肥料栽培米の新規拡大に助成する「美郷ブランド確立事業」を行っております。むろん、生産調整の実施者に限りませんが、新規拡大作付の条件を撤廃する、もしくは助成額を増額することができないでしょうか。また、「ブランド品目作付支援事業」では、困難な花卉、野菜の栽培と出荷が予測されますが、減農薬、減化学栽培のハードル拡大と格上げ助成がで

きないでしょうか。いずれ、時代は食の安全・安心と自給率の向上を求めています。私は、美郷農業が向かう方向としても必要と考えますが、町長の政策をお伺いいたします。

3点目として、大田区との人事交流について質問いたします。平成20年度大田区との人事交流を行います。この事業は、町職員の資質向上はもとより、大田区とのつながりをより深めるとともに、物流交流の促進やアンテナショップ開店の足掛かりになるものと期待しております。また、交流の基礎こそ人であり、派遣される職員は仕事でもプライベートでも大いに楽しみ、人脈づくりに励んでほしいと思っています。その期待を持って提案いたします。

人事交流の人選に当たっては、職員すべてを対象として大田区で行いたい夢を添えての公募はいかがでしょうか。これは、厚生労働省との人事交流にも当てはまりますが、私は夢を抱きみずから出向を望む活力ある、言い換えればバイタリティーにあふれた職員こそ人事交流の最適任者と考えますが、町長の方針をお伺いいたします。

4点目として、大田区との文化交流事業について質問いたします。交流を支え発展させるためには、双方向性と共有するメリットが必要と考えています。過去を振り返って、確かに防災協定の締結や小正月行事への大田区六郷地区住民の参加がありました。しかし、現在の交流は美郷町からの物流が主な交流との印象が強いと感じています。そこで、政策としての大田区文化交流事業を提案いたします。文化交流はお互いにメリットがあり、文化を紡ぐ人と人とのつながりがよりきずなを太くします。その手始めとして、教育費の学校交流事業や芸術文化活動事業を活用し、「西六郷少年少女合唱団」を招聘してはいかがでしょうか。かつて、大田区と旧六郷町の交流はこの合唱団来町から始まりました。また、現在当時指導者だった故鎌田典三郎氏の意味で解散した合唱団が再結成し、活動を再開しています。私は、平成20年度からの大田区との交流を新たな事業展開と位置づけ、お互いのきずなをより強固にするためには文化交流事業が必要であり、この合唱団招聘はそのスタートにふさわしいと考えておりますが、町長の見解をお伺いいたします。

この質問の最後に、いやしをテーマにした観光について質問いたします。大田区との相互交流の発展は、美郷町の滞在人口の増加につながるでしょう。また、大田区民が来町する動機づけを育てはぐくむことが、ほかの観光客をも増加させる近道になると考えています。美郷町には、人をひきつける魅力がいろいろとあります。その中で、清水を代表する「いやし」を観光の目玉として特化できないでしょうか。平成20年度、新たな試みとして「田園アート」を創作します。それも都会人をひきつける手段の一つとなりますが、既存の自然をもっと活用できないでしょうか。

例えば、映画「となりのトトロ」の背景画を描いた男鹿和雄さんの現風景は、出身地旧太田町と旧千畑町にありました。私は「となりのトトロ」で描かれた自然そのものやなつかしい風景を介在して、美郷町の現風景をそのままに伝えられたなら、訪れる人々の琴線に触れる観光体験になると考え

ておりますが、町長の見解をお伺いいたします。以上です。

○議長（伊藤福章君）答弁を求めます。町長登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君）吉野議員のご質問にお答えいたします。

初めに、美郷の味販売交流促進事業についてですが、現在の物販交流は交流市実行委員会の構成団体が会員や組合員に参加を募っており、希望者は基本的には参加できる仕組みとなっておりますが、一定の方々の参加にとどまっている現状にあります。今後、大田区との交流の幅を広げていくには、こうした取り組みをビジネスチャンスととらえて趣旨に賛同する方々が広がり、さらには組織として自主的に運営されていくことは、事業者の意識改革を促進する意味でも大切なご指摘と存じます。

しかしながら、こうした取り組みに事業者が組織化を図ること、そして自主的運営をしていくには商工会等の関係団体の指導のもと、必要な調整を冷静に図っていくことが必要と存じます。ゆくゆく、そうした体制に近づいていくよう商工会等とも連携を図りながら誘導してまいりたいと存じます。また、「売れる美郷産物」となるよう工夫をこらすことは、商業ベースで事業展開するには必要不可欠なことであり、そのためには消費意欲を喚起するセールスポイントが必要になるものと存じます。そのため、今後は美郷町の特色である「清浄な水」を全面に出したイメージ戦略を考えるとともに、農産物や農産加工品については来年度から本格稼働する堆肥センターの堆肥利用を全面に出した、「安全・安心」のイメージづくりが必要ではないかと考えているところです。

いずれ、こうした販売戦略は行政よりも商工会や農業団体が得意とする分野ですので、連携を図りながら相互協力のもとで事業展開を考えてまいります。

次に、美郷ブランド確立事業についてですが、議員ご質問の美郷こだわり米元気事業は、減農薬、減化学肥料栽培米等のこだわり米の作付誘導に向けて支援策を講じているもので、18年度から19年度にかけて35.5ヘクタール拡大しております。支援対象を新規及び拡大としておりますのは、こだわり米栽培の初年度に見られる収穫量減少を考慮してのことであり、条件を撤廃することは改めて事業目的の整理と適切な支援内容について十分に検討することが必要となります。また、助成額の増額については、全体予算との調整が必要となりますので、議員のご提案は今後の検討課題と認識させていただきます。なお、農地・水・環境保全向上対策においては、一定の要件をクリアする減農・減化栽培に対して助成を行う先進的営農支援のメニューがあり、現在のところ56ヘクタールで10アール当たり6,000円の助成が別途講じられているところです。

また、ブランド品目作付支援事業についてですが、19品目をブランド品目と位置づけて産地づくり交付金と町単独事業をもって支援策を講じておりますが、一定の厚さで支援を講じているところです。それぞれ趣旨をもって施策を構築しておりますので、今後支援内容を考慮していくためには改め

て事業目的の整理や適切な支援内容を、財政環境と相談の上検討していくことが必要となります。このご提案も、今後の検討課題とさせていただきたいと存じます。いずれ、今後は食の安全・安心がより求められるものと認識しており、消費地との交流を踏まえて農業団体と連携を図りながら支援内容と実効性の関係について検討をしてみたいと存じます。

次に、大田区との人事交流についてですが、施政方針で触れましたとおりこれまでの人事交流に加えまして、平成20年度からは新たに東京都大田区との人事交流を行うことにしました。このたびの人事交流は、議員ご指摘のとおり町職員の資質向上に加えて大田区とのつながりをより深めることで、今後の人的交流や美郷町産米など物産販売を円滑に進めたい目的で太田区長に申し入れたものです。その派遣職員の人選に当たっては、長期にわたって赴任するという性質上おのずから選定に当たっての留意点が生じてまいります。派遣される職員の選考には、派遣先での環境適応力あるいは行動力があるかどうか、それから人事交流によって得る経験を美郷町において生かせる応用力があるかどうかなどといった個人的資質に加えまして、長期間の赴任を可能とする家庭環境かどうかなど総合的な判断が必要となります。厚生労働省を初めとした人事交流も、すべてこうした留意点を総合判断して人選を行っているところです。議員ご提案の職員の積極性を重視した人選については、基本的には非常に大切なことと認識しておりますので、今後の人事交流に当たっての一つの参考にさせていただきたいと存じます。次に、大田区との文化交流事業についてですが、交流推進の一環として文化面を取り入れることは交流を活発化させる観点で大変意義あることと認識しております。しかし、現時点ではこれまでにない新たな交流をこれから展開させていく段階であって、限られた人材と予算ではまずは二兎を追わず、20年度からスタートさせる「うりこめ美郷応援事業」が円滑に推進されるよう、エネルギーを傾注させたいと存じます。文化交流については、その次のステップとして整理して取り組んでまいりたいと思いますので、ご理解をお願いいたします。なお、議員からご提案いただきました「西六郷少年少女合唱団」のような芸術文化団体を招聘することについては、何らかの記念や節目のときに企画を考えたいと考えております。

次に、「いやし」をテーマにした観光についてですが、議員ご指摘のとおり美郷町には心に余韻を残す魅力を持った地形や風景などがたくさんあると私は思っております。一方で、そうした魅力について私も含めまして町民各位がどれほど認識しているかといえば、合併から時間の浅い現況では必ずしも十分ではないかもしれないと思うところです。また、普通非日常的なことがらには何かを敏感に感じるものですが、日常的な物事にはよほど意識を持たないとその魅力を見出そうとする力が働きにくい面もあるものと思います。

そのため、町としては合併を経た後町民みずからが町内風景の魅力を再発見してもらいたい意味で、昨年度は町内写真コンテストを行うとともに、今年度は美郷の風景10選の選定などに取り組んで

いるところですが。その中には、議員がご指摘の清水や水環境などが選定されてくるかもしれませんが、「となりのトトロ」に出てくるような森や丘陵地、並木なども選定されてくるかもしれません。また、来年度は古木・銘木マップも作成したいと存じます。こうした樹木の持ついやし効果も一つの観光につなげてまいりたいと考えているところです。いずれにいたしましても、素晴らしい自然風景がもとよりいやしの機能を持っておりますので、そうしたポイントの再確認とそれをつないだ結果として滞在型観光につなげられないか、そして引いては美郷町全体がいやしの観光地にならないか、今後模索してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（伊藤福章君）16番、再質問ありますか。16番吉野 久君の再質問を許可します。

○16番（吉野 久君）1点だけ再質問させていただきます。

私、今回こういう質問をしましたのは、地域経済の活性化それが一つ目的であり、また生産者・商業者の意識改革が一つの目的でございます。12月定例会に、農業問題に非常に質問が集中しましたけれども、やはり農家の方が元気になることがこの地域の活力を取り戻す、地域経済を下支えするものと考えております。太田フェスタやまたこの前の鎌田駅前での物産販売で、私が一つヒントを得たのは、生産し、それを加工し、そしてまた商品として販売するまでに至った商品は非常によく売れるということです。やはり、生産し、加工し、販売する、これには三つの利益が伴ってきます。つくってもうけて、加工してもうけて、販売してもうける。そういうものを、やはりどどんどどん美郷町の農家もまた商業者も、そういうことを意識しながら頑張っていかなければいけないと考えております。

その中で町長が答弁したように、だとすればやはりJAや商工会の指導力、そういうものが非常に問われるわけですが、ただ残念なことながらこの前の鎌田駅前での物産販売につきましては、商工会職員はだれ一人参加していませんでしたし、まず積極的なアプローチがなかったと。そういうことから、やはり当該団体にもっと個々の農家、商業者を元気づけるんだという、そういう気持ちになってもらいたいなど、これが一つございます。それと、やはり現実の農家や商業者が「じゃあ、頑張ろう」という気持ちになるのか、そこら辺が非常に今心配しているわけです。そういうことで、こういう事業も始まったということです、そこら辺の意識改革、これは当該団体のJAや商工会だけでなく、町としてもどどんどどんこういう事業をPRしながらやっていただきたいと思っておりますけれども、その点につきましてお願いいたします。

○議長（伊藤福章君）答弁を求めます。町長自席でお願いします。

○町長（松田知己君）ただいまの再質問にお答えいたします。

基本的に、町が物を売るという時代ではありませんし、また行政がそうした機能を持つべきでもありませんので、基本的には事業者、商業者、農業者の方々がみずからの利益を上げるために頑張っ

もらうことが基本認識です。そのために必要な指導あるいは調整活動については、行政なり関係する団体なりに力を発揮してもらい、力を発揮しないといけないわけでありますので、そうした認識のもとで今後とも頑張ってまいります。

なお、事業者の方々にそうした認識に立ってもらうためには、かなりこれまでの意識を変えてもらわないといけません。そのために、今般地産地消推進事業としていろいろな取り組みに取り組んでいるわけですが、そうした取り組みもその一連にあることをぜひご理解いただきたいと思います。以上です。

○議長（伊藤福章君）16番吉野 久君、よろしいですか。

○16番（吉野 久君）終わります。

○議長（伊藤福章君）これで、16番吉野 久君の一般質問を終わります。